



センターにいるアオダイショウの子ども、2匹で丸まっています。



春を待ちわびる生き物

この広報誌が配布されるのは1月末。1年で最も寒い時期ですね。

太陽の動きをもとに古代中国で考案され、季節変化の指標としてわが国でも昔から使われてきた二十四節気にじゅうしせつけいのひとつに「小寒しょうかん」と「大寒たいかん」があります。小寒は寒さが厳しくなるころで、1月初旬にあたります。今

年は1月6日でした。大寒は寒さが最も厳しいころで、1月下旬になります。今年は1月20日でした。

非常に寒い時期なので、綾ユネスコエコパークセンターにいる生き物たちも、動きがとてもゆつくりになっています。へびたちは隠れ家の下で丸まっていたりします。ただし、建物内であるため、暖房を入れて部屋が暖かくなると動き始めるのですが。

昆虫や魚類、カエルなどの両生類、カメやスッポン、ヘビなどの虫類の多くは外の温度変化に伴って体温が変わる変温動物で、寒い時期には体温が下がってしまいます。その結果、食べ物を消化する能力などが落ちるため、自然界では土の

中など寒さをしのげる場所です。じっとしたり、冬眠をしたりして体力を温存しながら春が来るのを待っているのです。

この季節、綾ユネスコエコパークセンターでだけでなく、自然のなかで生き物を見つけた時は、そつとのぞいてみましょう。春を待ちわびる姿が見られるかもしれません。

■施設の見学・利用の問い合わせ先
綾ユネスコエコパークセンター
☎77-3482
※毎週火曜日休館

column

ニホンテン

イタチの仲間にも属する日本固有のほ乳類です。

体の大きさはネコくらいで、主に夜に活動し、小動物から木の実までさまざまなえさを食べます。木登りが上手で、樹洞などをねぐらにしています。

また、夏と冬で毛色が変わること知られていて、夏は黒から茶色の毛、冬になると顔は白く体は鮮やかな金色の毛になります。このような黄金色になったテンを「キテン」と呼びますが、九州のテンは冬の寒い期間が短いせい、あまり鮮やかな色になりにくいとされています。鮮やかな黄金色のキテンに出会うことがあれば、その年は寒い冬が続いている証になるかもしれません。

